

科目名		授業形態	担当教員名	
器質性構音障害Ⅰ（口蓋裂）		講義	藤原 百合	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
口蓋裂は先天的にみられる顔面口腔の形成不全で、哺乳・離乳、聴覚障害、構音障害、心理社会的問題など成長過程で多くの問題を呈する疾患である。言語聴覚士は口蓋裂治療チームの他の専門職と協力して早期からのサポートを行う。講義では、関連する医学的基礎知識と発達の観点からの評価・指導について学習する。また、症例を通して口蓋裂治療の実際を学ぶ。				
授業の到達目標				
口蓋裂に伴う問題と、発達の観点からの評価・指導が理解できる。 器質的構音障害（口蓋裂）の評価ができる。 器質的構音障害（口蓋裂）の治療理論を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	口蓋裂臨床に必要な基礎知識、口蓋裂治療チームにおける言語臨床家の役割			
2	口蓋裂言語の特徴：発声、共鳴、呼気鼻漏出、特異な構音操作の誤り			
3	口蓋裂言語の評価（1）発話の聴覚的評価、口腔・顔面の形態機能の評価			
4	口蓋裂言語の評価（2）鼻咽腔閉鎖機能検査方法			
5	口蓋裂言語の治療（1）鼻咽腔閉鎖機能不全に対する医学的治療および機能訓練			
6	口蓋裂言語の治療（2）特異な構音操作の誤りに対する指導			
7	症例検討－治療計画を立てる			
8	口蓋裂言語臨床の実際：年齢による対応の変化			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	教科書を中心に授業内容全般を出題範囲とした筆記テストを実施し、得点により評価を行う。		
レポート				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版	藤田郁代 監修		医学書院	
自由記載	その他、必要に応じてプリントを配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
口蓋裂の言語臨床 第3版	岡崎恵子・加藤正子ら編		医学書院	
自由記載				
備考				
手鏡、鼻息鏡、ペンライト、舌圧子、教科書				